

## 文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史1	2	川口 幸大	3	前期 火曜日 4講時	
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史 2	2	川口 幸大	4	後期 火曜日 4講時	
文化人類学基礎講読	ネイティブ・ツーリズム:トラベルとツーリズムの文化人類学	2	越智 郁乃	3	前期 火曜日 3講時	
文化人類学基礎講読	専門文献読解1	2	包 双月	4	後期 火曜日 3講時	
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	前期 月曜日 4講時	
文化人類学基礎演習	専門文献読解	2	包 双月	4	後期 月曜日 4講時	
文化人類学各論		2	ボレー・ペンメレン・セバスチャン	6	後期 火曜日 2講時	
文化人類学各論	宗教と観光の文化論、東北の宗教人類学、歴史人類学	2	中西 裕二	集中(5)	集中講義	
文化人類学演習		2	川口 幸大	5	前期 月曜日 3講時	
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	越智 郁乃	5	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	
文化人類学演習		2	川口 幸大	6	後期 月曜日 3講時	
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	越智 郁乃	6	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 1
2. Course Title (授業題目)：The theory and history of cultural anthropology 1
3. 授業の目的と概要：文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To learn the theory and history of cultural anthropology
5. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To learn the theory and history of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 イントロダクション
  - 2 文化人類学とは① 文化とは
  - 3 文化人類学とは② 人類とは
  - 4 文化人類学とは③ 文化人類学とは
  - 5 進化主義①
  - 6 進化主義②
  - 7 伝播主義
  - 8 機能主義①
  - 9 機能主義②
  - 10 アメリカの文化人類学
  - 11 文化相対主義
  - 12 構造主義
  - 13 象徴人類学
  - 14 まとめ
  - 15 総合振り返り
8. 成績評価方法：

授業後のミニッツペーパー 50%

学期末考査 50%
9. 教科書および参考書：

参考書『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄(編)2006、弘文堂
10. 授業時間外学習：毎回の復習、ノート作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 2
2. Course Title (授業題目)：The theory and history of cultural anthropology
3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To learn the theory and history of cultural anthropology
5. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To learn the theory and history of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
  - 1 前期の振り返り
  - 2 構造主義
  - 3 象徴／解釈人類学
  - 4 実践とハビトゥス
  - 5 フェミニズムと人類学
  - 6 『文化を書く』と『オリエンタリズム』批判
  - 7 歴史と脱構築
  - 8 参与する人類学
  - 9 グローバリゼーションと移動の人類学
  - 10 存在論的転回
  - 11 主体と ANT
  - 12 マルチスピーシーズ
  - 13 これからの人類と文化人類学
  - 14 まとめ
  - 15 総合振り返り
8. 成績評価方法：

授業後のミニッツペーパー 50%

学期末考査 50%
9. 教科書および参考書：

参考書『21 世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方』前川啓治 [ほか] 著、2018 年、新曜社
10. 授業時間外学習：毎回の復習、ノート作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ネイティブ・ツアーズ：トラベルとツーリズムの文化人類学
2. Course Title (授業題目)：Native Tours：The Anthropology of Travel and Tourism
3. 授業の目的と概要：この授業では、Erve Chambers によるトラベルとツーリズムの文化人類学に関する英語著作の講読を通して、近代ツーリズムの発展やそれがもたらす自然や社会への影響について人類学的に理解することを目的とする。この授業は、学術的な英文の読解力向上を目指す。受講生は、教材テキストを毎回 4-5 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to improve your reading skills in academic English. Students are required to prepare Japanese translations of English texts (4-5 pages per class) and take turns presenting their translations in class. The text to be used is a 2000 book by Erve Chambers, a tourism anthropologist, on the development of modern tourism and its impact on nature and society. Students are expected to appreciate anthropological ways of understanding identity construction.
5. 学習の到達目標：(1) 英文読解力を養う。  
(2) ツーリズムの発展に関する歴史、エコツーリズムの事例から人類学的なものの見方を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Improve English comprehension skills  
(2) Learn anthropological perspectives through a case study of tourism history and eco-tourism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
第1回：イントロダクション  
第2回から第15回は以下の内容を順次訳し、議論する。
  - 1 From Travel to Tourism  
Travel in Historical Perspective  
The Advent of Modern Tourism  
The Tourist as Subject  
Case Study: Touring the American Southwest
  - 2 Tourism, Society, and the Political Economy  
Tourism and Economic Development  
The Distribution of Economic Costs and Benefits  
Tourism as Work  
Tourism Policies and Plans  
Transnational Dimensions of Tourism  
The Politics of Representation  
Social Consequences of Tourism  
Tourism and Gender  
Case Study: Tirol and Rural Tourism
  - 3 Nature, Tourism, and the Environment  
Environmental Impacts of Tourism  
Tourism to Natural Places  
People as Nature  
Ecotourism  
Case Study: Ecotourism in Belize
  - 4 Tourism and Culture  
Tradition, Authenticity, and Modernity  
Tourism and Ethnicity

毎回、4-5 ページ分の訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。その他、人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう。
8. 成績評価方法：  
毎回の授業での訳文の口頭発表 (40%) 出席と議論 (60%)
9. 教科書および参考書：  
テキストを授業中に配布する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前に約 4-5 ページ分の訳文を準備し、授業後は授業での討論を踏まえて自分の訳文を修正する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LB42307, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解1
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：本講義では、遊牧および牧畜に関する人類学的民族誌を精読し、乾燥地域に生きる人びとの生業、文化、考え方について討論を行う。そして、人間と動物の関係について理解を深め、人類学的研究方法を学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：To learn main research topics of cultural anthropology through literature study
5. 学習の到達目標：文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To learn theory and ethnography of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. イントロダクション
  2. 内陸アジアの文化
  3. 20世紀における牧畜文化の変化
  4. 生業経済としての牧畜
  5. 親族および社会関係
  6. 定住化と都市化
  7. 内陸アジアの牧畜と移動
  8. 遊牧の終焉？
  9. 遊牧民の土地
  10. 遊牧民の土地所有とは？
  11. 動物の主体性とは
  12. 多種共生の実態
  13. 家畜管理技術
  14. 動物と領土
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解 1
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：文化人類学の基本的な考え方と研究のされ方について学ぶ。毎回テキストに沿って特定のテーマを扱い、その主題について、および日本を含めた各地域の特性と共通性について理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn the basic concepts and research method of cultural anthropolog. Each class deals with a specific theme according to the text, and students deepen their understanding of the subject and the characteristics of each region including Japan and universality of human.
5. 学習の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve basic understanding of the themes and methods of cultural anthropology through reading basic literature and group discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - ① イントロダクション
  - ② 序章
  - ③ 環境と生業
  - ④ 経済
  - ⑤ 移民
  - ⑥ 親族と結婚
  - ⑦ 法と政治
  - ⑧ 民族と国民
  - ⑨ 神話と宗教、呪術
  - ⑩ 歴史
  - ⑪ 難民、植民地
  - ⑫ 開発と支援
  - ⑬ 総合振り返り
  - ⑭ 総合討論
  - ⑮ まとめ
8. 成績評価方法：

授業中の発表、発言：最終レポート＝5：5
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習
  - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  - 1 2. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LB41402, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献解読
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：この授業では、最新の民族誌を精読し、文化人類学について概括的な知識を得る。そして、文化人類学の思考法と考え方を学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics and theory of cultural anthropology through literature study and discussion.
5. 学習の到達目標：基礎文献の精読と討論を通じて、文化人類学を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn main research topics and theories of cultural anthropology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1、イントロダクション
  - 2、民族と世界
  - 3-4、バリ島民
  - 5-6、ナバホ族
  - 7-8、アラスカ・エスキモーの社会
  - 9-10、アフリカ・ナイル上流のヌエル族
  - 11-12、中央アフリカ
  - 12-13、イスラム世界
  - 13-14、トロブリアンド諸島の母型社会とクラ交易
  - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester : 0 単位数 : 2

担当教員：中西 裕二

コード：LB98821, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と観光の文化論、東北の宗教人類学、歴史人類学
2. Course Title (授業題目)：Cultural Theory of Religion and Tourism, Anthropology of Religion, and Anthropology of History
3. 授業の目的と概要：本講義では、神仏習合の視点からみた東北地方の宗教人類学的考察、日本に関する観光の社会史と観光人類学的考察、日本の宗教的世界観に対する構築主義的視点の導入、という3つのテーマから授業を進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, the class will focus on three themes: an anthropological examination of religion in the Tohoku region from the perspective of syncretism of Shintoism and Buddhism; a social history of tourism and an anthropological examination of tourism with regard to Japan; and an introduction to a constructionist perspective on the Japanese religious worldview.
5. 学習の到達目標：①日本の宗教的世界観における東北地方の特殊性について理解を深める。  
②観光と文化の関係についての理解を深める。  
③文化理解における歴史の問題について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Deepen understanding of the uniqueness of the Tohoku region in the Japanese religious worldview.  
(2) Deepen understanding of the relationship between tourism and culture.  
(3) Deepen understanding of historical issues in cultural understanding.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. イントロダクション
  2. 日本の観光的行動の発生—日本における巡礼の成立
  3. 日本における観光史と宗教史—江戸期末まで
  4. 21世紀における観光の変化と日本
  5. コンタクト・ゾーンとしての観光地の変化
  6. 観光と構築的文化観の再生産
  7. 日本における「歴史」と「文化」の関係性
  8. 「創られた伝統」論—歴史の構築主義的視点
  9. 神仏習合と寺社勢力論—中世史学の成果から
  10. 日本宗教史上の大転換—神仏分離
  11. 東北地方の寺社勢力—旧山形藩の事例から
  12. 東北地方の薬師信仰の謎
  13. 創られる歴史—歴史伝承
  14. 創られる歴史—偽書、書き換え
  15. 日本における「歴史」と「文化」を再度考える
8. 成績評価方法：

平常点を20%、期末レポートを80%として評価する。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

Not specified. Handouts will be distributed in class.
10. 授業時間外学習：文化人類学は生活に根付いた知識を分析する学であるため、日々生きている日常の中での気づきが重要となる。本授業でテーマとなる東北地方の宗教的世界観、神仏習合、観光と宗教、歴史と構築主義に関して、観察や情報のチェック、文献の検索を日常的に行う必要がある。

Since cultural anthropology is the study of analyzing knowledge rooted in daily life, it is important to become aware of the everyday life we live every day. Students will need to make observations, check information, and search the literature on a daily basis regarding religious worldviews, Shintoism and Buddhism, tourism and religion, and history and constructivism in the Tohoku region, which will be the topic of this class.
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB51308, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB53313, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：How do we do fieldwork?

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画を立案する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In the first semester, we will discuss research methods and the types and characteristics of materials and make a research plan according to our own interests.

5. 学習の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論①
7. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論②
8. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論③
9. フィールドワーク計画の報告と討論①
10. フィールドワーク計画の報告と討論②
11. フィールドワーク計画の報告と討論③
12. フィールドワーク計画の報告と討論④
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

8. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

9. 教科書および参考書：

特定の教科書は用いず、必要資料は講義前に classroom にて適宜配布する。

10. 授業時間外学習：フィールドワークに向けたテーマ設定、文献調査等を事前に行った上で、各自のテーマに沿ったフィールドワークを遂行し、フィールドノートを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB61307, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 水曜日 4 講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目) : Doing Fieldwork: Methods in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In this semester, students will conduct research based on their own research plans, and complete each research and summarize the results through discussing the progress of the research in this class.

5. 学習の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

8. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%] 報告書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし